

《ご参考》あなたに合ったポートフォリオは？

「投資スタイル簡単チェック」

質問票

下記の8つの質問に答えてください。回答を次ページの得点表で集計すると、“あなたに合った”ポートフォリオにたどりつきます。

(あくまで「ご参考」です。実際のポートフォリオはご自身の責任において決定してください。)

Q1 あなたの収入は今後どうなるとお考えですか？	
①大幅な収入増が見込める。	④収入は減ると思う。
②そこそこの収入増が見込める。	⑤わからない。
③横ばい。	
Q2 貯蓄について熱心に研究するタイプだと思いますか？	
①積極的にマネー雑誌等から情報を仕入れ、検討している。	③たまたまマネー欄が雑誌・新聞等に掲載していた場合、読んだりする。
②金融機関などに相談相手があり、その人から情報を入手している。	④あまり情報収集などはしない方である。
Q3 株式や株式投資信託など、価格変動リスク(値下がりリスク)のある商品への投資経験がありますか？	
①ない/そのようなリスクのある商品は好きではない。	④ある/自分には向かないと思うので、今はあまり投資したくない。
②ない/興味はあるのだが、よくわからない。	⑤ある/今後も継続していきたいと思っている。
③ない/しかし今後は挑戦してみようと思う。	
Q4 資産運用にあたって、自分の感覚に一番近いものはどれですか？	
①リターンが低くて物価上昇についていけなくても構わないから、元本割れだけは絶対に防ぎたい。	④主にリスクの高い商品で運用するが、低リスクの商品も少し組入れたい。
②主に低リスクの商品で運用するが、リスクはあるがハイリターンを期待できる商品を少しは組入れたい。	⑤リスクは高くても構わないので積極的にハイリターンを狙って運用したい。
③リスクの高い商品と低い商品を半々にしてバランスを取りたい。	
Q5 今、100万円を持っています。10年後にはどうなっているかわかりませんが、仮にこれまでの実績からおよその最高最低が予想できたとします。あなたなら、どの商品を選びますか？	
①100万円～105万円(年率約0%から0.5%)	③70万円～200万円(年率約-3.5%から7.1%)
②90万円～150万円(年率約-1.0%から4.1%)	④50万円～500万円(年率約-6.7%から17.4%)
Q6 長期保有するつもりで購入した株式や株式投資信託などの価格が急落した場合の対応として、あなたの場合、次のどれに最も近いと思いますか？	
①価格が下がると心配でたまらなくなり、すぐにでも売りたい。	③価格が下がれば心配だが、じっと待って当初目標としていた価格を上回るまで売却しない。
②価格が下がれば心配だが、じっと待って購入価格近辺まで戻ったら売却する。	④株価等が変動するのは当たり前であるので、下落の理由を知る必要はあるが、特に心配はしない。
Q7 長期保有するつもりで購入した株式や投資信託などが1ヶ月後に突然30%値上がりしたとします。値上がりの理由や今後の見通しに関する情報が無い場合、あなたならどうしますか？	
①すぐに値下りするかもしれないので売却する。	③さらに値上がりするかもしれないので買い増しする。
②まだ値上がりするかもしれないので持ち続ける。	
Q8 あなたが実際に体験した場合に、しまったと思うのは以下のどちらですか？	
①元本保証型商品を買ったが、迷った末に買うのを止めた積極運用型投信が半年経って2倍に値上がりしていた。	③どちらでも気になって平静でいられない。
②リスクは大きいけど値上がり期待も大きい積極運用型投信を買ったが、半年経ってもほんの少ししか値上がりしなかった。	

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
回答								

回答編

ステップ1 前ページの回答結果から、各質問の点数をチェック、合計してください。

Q	回答	点数	Q	回答	点数	Q	回答	点数
Q1	①	5	Q4	①	0	Q7	①	0
	②	0		②	20		②	20
	③	0		③	30		③	50
	④	-20		④	80	Q8	①	50
	⑤	-10		⑤	100		②	10
③	-20	③	50					
Q2	①	5	Q5	①	0	合計		点
	②	5		②	20			
	③	0		③	70			
	④	-30		④	100			
Q3	①	0	Q6	①	0	合計		点
	②	10		②	20			
	③	50		③	80			
	④	5		④	100			
	⑤	60						

ステップ2 合計点数から、回答結果によるあなたのリスク許容度のタイプが判定されます。

タイプ	安全第一の方	慎重型	やや慎重型	バランス型	やや積極型	積極型
合計範囲		-70~20	25~160	170~290	300~410	420~470

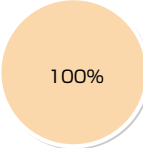
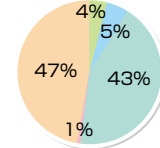
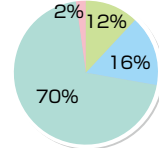
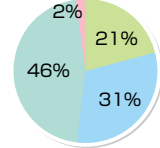
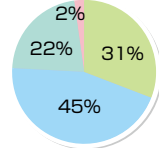
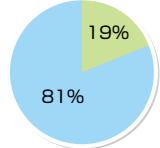
ステップ3

ラストです。運用期間はポートフォリオを決める大切な要素の一つです。下の表はタテがリスク許容度のタイプ、ヨコが運用期間で区分されています。（運用期間は一般的に60歳までの年数とお考えになってよいでしょう。）交わったところに、“あなたに合った”ポートフォリオ番号が示されています。

《運用期間による運用方針》

運用期間 リスク許容度	40年~36年	35年~31年	30年~26年	25年~21年	20年~16年	15年~11年	10年~6年	5年~0年
慎重型	3	3	2	2	2	1	1	1
やや慎重型	3	3	3	3	2	2	2	1
バランス型	4	4	4	4	3	3	3	2
やや積極型	5	5	4	4	4	4	3	3
積極型	5	5	5	5	5	5	4	3

ポートフォリオ(例)

タイプ	安全第一の方	1.慎重型	2.やや慎重型	3.バランス型	4.やや積極型	5.積極型
イメージ グラフ						

■ 国内株式投信 ■ 外国株式投信 ■ 国内債券投信 ■ 外国債券投信 ■ 元本確保型

この「投資スタイル簡単チェック」は、2015年時点での過去の実績、諸分析・調査、見通しを踏まえて作成しています。一つの例として、ご参考にしてください。